



「よってたかって」精神

保護者がよそたかそ

今週は読み聞かせがありました。火曜日と水曜日の二日間にわたって全学年で実施されました。保護者、地域の方など多くの方にご協力いただきました。しっかりと準備をしていただき、ありがとうございました。皆さんが緊張されていましたが、しっかりと準備をしてくださりありがとうございました。終わってみれば、一〇分では足りないという声もあり、さらに有意義なものにしていくために検討の余地ありと感じました。私も「人が足りないならやってもいーよー」と軽い気持ちで言ったことも忘れていましたが、実際入れてあったのでビックリしました。私がやったことは、ほとんど古典の授業でしたが、子どもたちはよく反応してくれて授業の面白さ、ひいては子どもに話をする面白さを感じたのでした。読み聞かせにご協力いただいた皆様も、子どもたちの反応を楽しんでいただけたらと幸いです。そして、必ずしも読み聞かせでなくてもいいと思います。大人が子どもに自分の経験を語ることも大事です。

何か見覚えのある方です。



職員がよそたかそ

また、水曜日は研究授業の事前検討会に参加しました。二年生の算数です。授業者は二年三組担任の谷口研自教諭、四年目のバリバリの若手として学びつつ日夜奮闘している一人です。授業の内容は十の位に繰り上がりのある筆算です。計算そのものは大人の私たちには非常に簡単な内容ですが、積み上げ教科(前の内容がわからなければ、次の内容もわからない教科)である算数の既習事項も、語彙もまだまだ足りない二年生の子どもたちに、どう説明して理解に導くかは非常に難しいのです。

授業検討会では、低学年担任教諭が自身の経験に重ねながら次々と意見を言います。また一方では養護教諭や特別支援担当教諭が子どもたちの認知的な面から必要な手立てを推測し意見を述べます。みんな声が大きく、まさに侃々諤々(かんかんがくがく...議論が盛んな様子)の

の状況です。谷口教諭はそうした意見を受け止めながら、教卓の前で立ち尽くしています。そういうどこか押され気味な様子からの鋭い意見が頭越しに飛び交う中で落ち着かない様子でいる初任の金澤琴子教諭。そして、その様子を見つめながら何か自分も言いたいけれど、言うべきことがなかなか思いつかないでいる私。一見力オスなようでも、「誰一人取り残さない教育」目指して意見交換をしていることは間違いありません。実はこうした職員の仕事の機会には、本校独自のものがありません。その名も「まなVIVA!」という本校独自の職員自主研修の場です。主宰は、鶴野雄太教諭と渡邊俊介教諭です。講師を努めるのはいずれも本校の職員で、それぞれの得意分野について講義し、ここでも侃々諤々が生まれます。校長は何も関わっていませんが、本校自慢の取組として校外に吹聴しています。

この日は第5回。坂本教頭の道徳講座でした。



児童がよそたかそ

同じ水曜日の五校時は児童集会でした。図書室からのオンライン集会です。図書室に入るとそこには六〇人ほどの児童が、入り口付近に密集して座っています。全員が委員会等の連絡や発表者です。上写真の手前に座ると画面に映り込むので、入り口付近に密集するのです。特に今回は人数が多くて、児童を踏んづけるわけにはいかないけれども、足の踏み場もないほどの多さです。(上の写真はいくらか減っています)各委員会が趣向を凝らした内容を考え、練習して、ドキドキしながら発表しました。それらを企画委員会の児童が上手にさばいて進行していきます。発表を見る人、聞く人が楽しめるようによくわかるようにという気持ちが伝わってきました。

本校の今年の重点の一つに組織の強化があります。つまりは「よってたかって」一つのことに取り組むことです。今後益々、「よってたかって」精神で保護者と職員で子どもの成長を促し、職員も「よってたかって」互いを磨き、そして子どもたちも「よってたかって」学校を楽しみ、互いを成長させる機会を大事にしていきます。